

## 第5回学校運営協議会の記録

日時	平成31年2月5日(火) 10:00~13:00	場所	祇園小会議室
出席者	熊田会長、鹿倉副会長、羽入委員、浅和委員、石川委員、服部委員、 上野地域学校協働活動推進員、谷田部校長、膝附教頭、中川教務主任(記録)		
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度学校評価の結果と改善策</li> <li>・平成31年度学校経営計画(案)</li> </ul>		
【司会：熊田会長】			
<p>1 教職員評価による学校評価と改善策について</p> <p>(膝附) 教職員による学校評価の中で、100点満点中75点未満だった項目について、教職員から改善策を出してもらった。</p>			
<p><b>Q13：心身の健康の維持・増進のため、勤務時間やメンタルヘルス等に留意されている。</b> (64.1点) 平成29年度70.4点(-6.3点)平成28年度72.0点(-7.9点)</p> <p>【主な改善策】・退勤時刻や健康についての意識付け。互いに声を掛け合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人で悩まずに、相談したりアドバイスを受けたりして早めに対処する。</li> <li>・仕事の分担、引継の工夫、情報・教材の共有、整理整頓</li> <li>・業務、行事等の精選</li> </ul>			
<p><b>Q9：教職員各自、担当の校務分掌の効率化を目指し、業務内容の精選に努めた。</b> (73.1点) 平成29年度80.6点(-7.5点)平成28年度73.1点(-0.0点)</p> <p>【主な改善策】・部活動の担当、校務分掌が特定の人に集中しないよう分担する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務や行事等の内容、方法等の見直し。反省を次年度に生かす。</li> <li>・研修や会議の精選と効率化</li> <li>・情報の共有方法の工夫</li> </ul>			
<p>(熊田) 実際に体調を崩した教職員はいたのか？なぜ数値が下がったのか？</p> <p>(膝附) 体調の悪い教職員が出たわけではない。勤務時間に対する意識が高まったせいだと思われる。</p> <p>(谷田部) 教職員は毎日、出退勤時刻を登録している。それをもとに、市教委が、毎月、超過勤務の状況を知らせてくれるが、それによると、祇園小は市の平均時間を若干上回っている。年度当初に比べるとかなり短くはなったが。</p> <p>(膝附) 7時に出勤すれば、それだけで1時間超過になる。</p> <p>(熊田) 個人情報を持ち帰れないので、学校で処理することになる。</p> <p>(鹿倉) 部活動を担当しているのは、何人くらいか？</p> <p>(膝附) 年間を通してではないが、相撲(5月)、合唱(5~12月)、陸上(6,7月と10月)、キンボール(9月と1~2月)、プログラミング(11,12月)を行っている。陸上は全教員で、それ以外は関係教員3~4人。ここで自信をもてる子もいるので。</p> <p>(服部) 部活動はどここの学校でも同じようにやっているのに、なぜ祇園小は超過勤務が多いのか。</p> <p>(石川) 部活動を、ボランティアに協力してもらおうのは、難しいのか？ボランティアが合唱部に入っている学校もある。</p> <p>(膝附) キンボールを学校単位でやっているが、地域の方がやることもできるのか？</p> <p>(熊田) 吹奏楽をやっている学校、鼓笛隊がある学校もある。</p> <p>(浅和) 児童アンケートで「学校は楽しい」が多いのは、子どもが満足している証拠。その分、先生達が頑張っている、気配りしていると言える。スパッと時間を切れない。</p>			

具体的に改善策を出し合ってはどうか？先生も人間。完璧にやろうとすると、精神的に参ってしまう。仕事内容を減らす（簡素化、集約）。やり方を変える（共有する等）。勤務時間外の仕事をどう減らすか？例えば、部活動等外部講師を頼んで、二人のうち一人は仕事を進めるとかすれば、余裕をもって子どもと接することができるようになる。

（膝附）現在、平成31年度の学校暦を作成中。4～5月はなかなか放課後の時間がとれない。

（谷田部）英語の時間が増えるので、月曜日も毎週6時間授業にしなければならない。行事を減らせば楽になるが、行事を通して児童が成長し、地域との連携が深まっている部分もあり、難しい。今後、検討していきたい。

**Q50：キャリア教育を通して、児童が勤労精神とともに自立に必要な能力を高められるよう努めた。（72.2点）**

平成29年度77.2点（-5.0点）平成28年度73.0点（-0.8点）

【主な改善策】・教科や道徳、総合的な学習の時間だけでなく、普段行っている当番や係活動等もキャリア教育を意識して指導する。

・キャリア教育で達成が望まれる具体的な児童の姿を示す。

（熊田）キャリア教育というと、職業人を呼んで…と思っていたが、先ほどの話の中の、「清掃や当番活動もキャリア教育の一環」というところに共感した。

（鹿倉）人間づくりの土台。集団の中で働くことを経験すること、他の人のために働くとか、自ら動くとか、心配りするとか、大事だと思う。学校が一つの家庭のように、人として身に付けるべきことを習うとあって、海外の人に驚かれるようだ。行事より、日常での活動を充実させるといった考えをありがたく思う。

（石川）おとなになってから分かるというか、成果が見えにくいものでもある。

（上野）キャリア教育は生き方の教育。どう生きるかの基礎。掃除、挨拶、「ありがとう」などの生活習慣を、どこまでやれるようにするかを意識することが大事。職業までいかなければやった気がしないかもしれないが、生きる上で大事なことをやっていると意識してくれればいいのでは。

改善策を全教職員が出し合ったのはよいやり方だと思う。100%でなくても、1つでも2つでも何ができるのかを考えて取り組めばよいのではないか。退勤時刻についても、遅くまでいる雰囲気があるからで、個々の意識を変えていけば大丈夫ではないか。

## 2 来年度の学校経営の基本方針（案）について

（谷田部）\*資料をもとに、主に下記について説明した。

### ○学校教育目標を変えること

『響き合い、輝かし合いながら、共によりよく生きようとする子どもの育成』

\*「響き合う」とは、慎み深く聴き合い、個と個の擦り合わせをする（第8代校長の思い）、そんな関わり合いをもちながら互いに学び合おうとする姿を現している。

\*「輝かし合う」とは、互いに認め合ったり助け合ったりする温かい人間関係の中で、自分や友達のよさを引き出し合い、さらに高め合おうとする姿を現している。

### ○目指す児童像の一部を変えること

### ○学校経営の方針に下記の要素を加え、内容を整理すること

- ・学業指導の充実を通して、安心感と自信をもって学べる学級づくりを目指す。
- ・特別活動の充実を通して、主体性や協調性、責任感や社会性、自治能力などを育む。
- ・児童指導の充実を通して、自己指導能力を高める。

- ・ふるさと学習やキャリア教育の充実を通して、地元のよさや望ましい勤労観を育む。
- ・様々な人との交流、学習の効率化のためにも、学習ボランティアとの協働を進める。
- ・教職員が心身ともに余裕をもって職務に向かえるよう働き方改革を進める。

(羽入) 合っているかどうかでなく、自分なりの考えを言えるようになってほしいというところに心を打たれた。

(熊田) 確かに、自己主張できる子とできない子、2極化していると思う。

また、社会に出たら、自分と合わない人とも協力していかなければならない。折り合いをつける経験を積み重ねる必要性も感じる。

学習ボランティアは、保護者の場合は我が子以外のクラスに？T市では、計算の〇付けや九九の練習・検定をボランティアに手伝ってもらっているようだ。市でボランティアを養成して学校に紹介していると聞いた。

(谷田部) 前任校では、まず保護者から募集して、養成講座を実施した。2年ほどやって、回覧板で地域に呼びかけたが、1人しか登録がなかった。(元教員)チラシを見て、自分から、一人で…というのはハードルが高いようだ。しかし、こんなことを始めましたよという宣伝でもよいと思っている。知っておいていただければ、個別にも声をかけやすくなる。

(服部) 学習ボランティアは、よい考えだと思う。手伝いたいという人は、この学区内にもいると思う。どう募集するか？タイミング、お願いの仕方が大事だと思う。

(石川) 生涯学習情報センターに人材を掘り起こしていただき、そこからお願いしていくこともできるか？

(上野) はじめは上手く教えられなくても、やり方を教えていけばだんだん慣れてくる。

### 3 その他

#### (1) 課題及び今後の方向性等

○クリーン活動については、次年度も回覧板で呼びかける。

回覧板を市役所から自治会長に送付していただけないかお願いしたが、一地域のみの回覧は難しいとのことであった。来年度も、学校から配達、郵送になる。

○キンボール・ソフトバレーボールの指導は、来年度も継続する。

○登校時の安全ボランティアは、これまで同様、やれるときに無理なくの姿勢で。

○祇園小祭は、来年度は早めに動きだして、高学年の児童を巻き込みたい。

○ギオンジャーで、手伝える人を増やしたい。

○小中連携あいさつ運動に地域の人にも参加してもらってはどうか。

○学習ボランティアの募集方法について考えていく。



**子どもたちのしあわせのために**

